

観光に関わる 4 冊の報告書

3月末から4月上旬にかけて、わたしが編集ないし執筆した「観光関係」報告書4冊が刊行された。ここ数年、大学内外で進めてきた観光に関わる研究教育プロジェクトの成果である。

* 名古屋の観光推進を考える研究会報告書

昨年6月に設置され、慣れない座長を努めた研究会報告書である。座長メモなどをもとにした研究会報告や資料、委員のレポートなどが掲載されている。報告書作成を強く主張して、事務局のサポートのもと刊行にこぎつけた。これからの名古屋市の観光推進に役立つことを願うばかりだ。

* 人間文化研究所年報第4号「特集：名古屋の観光」

わたしが所長の研究所年報の特集第1部が、「名古屋と観光」と名古屋学であり、総合科目の担当者が執筆している。講義を担当しているJR東海相談役の須田寛さんにも講義録を寄稿してもらった。なお、わたしが東南隅櫓から撮った名古屋城天守閣が年報の表紙を飾っている。



* 文化的多元性の保存と発展に関するペーチ大学（ハンガリー）との共同研究報告書

山本明代さんを研究代表者とする研究会報告書であり、第1部の「観光まちづくりの国際比較」に昨年11月15日に行われた国際シンポジウム関係の論文などが掲載されている。わたしも「名古屋の観光まちづくり」というテーマで、当日の報告をもとに多くの写真を入れた論文を執筆している。

* 社会調査実習報告書「名古屋都心の観光まちづくり」

なんとか賞味期限内に刊行できて、ほっとしている。詳細については、報告書の最後に掲載してある下記の「『報告書』刊行と観光まちづくり」を参照してもらいたい。

(2009年4月9日 記)

「報告書」刊行と観光まちづくり

今年度の社会調査実習のテーマは、「名古屋の観光まちづくり」である。これで観光をとりあげて3年目になる。前年度はメーグル・外部アンケート、覚王山と熱田の地点

調査を中心に、名古屋の観光まちづくりにアプローチした。今回は名古屋の都心に焦点をあて、まちづくりや魅力と関わらせて観光の課題を調査することにした。なかなか調査対象や方法が明確にならず、イライラすることも多く、途中で挫折するのではないかと不安になったこともあった。いつもより少し遅れたが、こうして報告書が「賞味期限」内に刊行でき、ほっとしている。9人のメンバーとともに、報告書刊行を喜びたい。なお、毎週の調査検討会には大学院生の平野誠悟君も参加して、貴重なアドバイスをしてくれた。

近年、観光に注目が集まっている。2007年1月に観光立国推進基本法が施行され、08年10月には観光庁が設置された。「住んでよし、訪れてよしの国づくり」、観光立国が21世紀の戦略手段として位置づけられた。多様な交流の促進と集客力の向上による観光の振興は、グローバル化と分権化が交錯する現代社会にあって、地方自治体においても重要な政策課題になっている。名古屋市でも新世紀計画2010で「名古屋の特色や魅力を生かし、広く世界に向けた情報発信につとめ、集客力の向上」を図るとしている。しかしながら、観光推進の体制は弱く、行政の「片隅」に置かれてきた。JR東海相談役の須田寛氏も今年度の講義のなかで、次のように指摘していた。名古屋は優れた観光資源があるにもかかわらず、あまり資源として認識されず、有効に活用されていない。「観光都市・文化交流都市」としての意識や体制が弱く、観光・交流施策も十分でない。

名古屋市は08年6月、「名古屋の観光推進を考える研究会」を設置した。ここ数年の研究教育が「評価」されたのか、わたしが研究会の座長に指名された。実習メンバーとの意見交換、調査実習の成果が研究会の活動に大いに役立った。今回の調査実習の目玉である「立ち寄り観光」を念頭に、研究会報告書の観光推進の基本戦略に次のように書いた。観光ニーズが多様化して、従来型の観光から「まちなか・まちづくり型観光」などに変化してきている。名古屋のような大都市の観光政策も、こうした変化を見据えて基本戦略を練る必要がある。名古屋の魅力やブランド力を高めること、訪れたいくなるような個性的なまちになることが集客力向上につながる。「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりである。名古屋の歴史・文化、環境を活かして、観光まちづくりを推進していくことが望まれる。残念ながら名古屋の観光政策は市役所全体の取り組みになっていない。昨年10月に策定された名古屋市観光アクションプランの中で、「本プランに掲げる事業に全庁で取り組む」と述べている。市役所では「全庁で取り組む」という7文字が重要な意味を持つようで、観光施策の大胆な「チェンジ」を見守っていきたい。

2009年3月

社会調査実習「名古屋の観光まちづくり」担当 山田 明